



いつまでも住み慣れた地域で暮らしつづけるために

第4回 認知症になっても安心して暮らせるまちに

上野山 裕士

認知症について、みなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。「何もわからなくなる」、「何もできなくなる」と考える方もいらっしゃると思いますが、けっしてそんなことはありません。認知症になってもできることはたくさんありますし、いつまでも地域で安心して暮らしつづけることも難しくありません。しかし、そのためには、専門職のみならず、地域に住まうすべての人が認知症について理解し、認知症の人やそのご家族に寄り添い、なにかにお困りのときにはできる範囲でお手伝いをするが必要となります。

2015年4月、紀美野町に、認知症の方やそのご家族と地域の人びとが交流し、そして互いを理解する場である認知症カフェ（「きみの*にこカフェ」）がオープンしました。にこカフェは、コミュニティカフェ「ふれあい広場紀美野」をお借りして毎月第四金曜日に開催しており、認知症の方とその家族、地域の人びとに加え、観光学部生も参加させていただいています。カフェでは、茶話、折り紙、塗り絵、カードゲームなど、参加者たちは思い

いに時間を過ごしています。月に一度ではありますが、このような交流の場は、認知症の方に生きがいや楽しみを提供するものとなっています。また同町では、地域住民を対象とした認知症高齢者への安心声かけ練習を実施しているほか、認知症啓発を目的とした全国規模のランニングイベント「ラン伴」にも積極的に参加するなど、認知症地域支援体制の構築に取り組んでいます。これらの取り組みへの参加は、学生たちにとって学びの機会になるとともに、多様な人びとと関わることの喜びを教えてくれるものです。

認知症と観光というと、ずいぶん離れた分野のようにも思われます。しかし、多様な人びとと共に生きていくという視点は観光を考えるうえでも不可欠ですし、観光を学ぶ学生だからこそ、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについてユニークな提案ができるのかもしれない。

くうえのやま・ゆうじ / 和歌山大学 観光学部
特任助手 / 博士（人間科学）>

第94回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

「日本庭園」のデザイン - その誕生と変遷

話題提供者 小野 健吉（和歌山大学 観光学部 教授）

日時

2017年7月19日 水 19:00 ~ 20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

庭園遺跡の発掘調査の成果や文献資料などを用いながら、日本庭園デザインの誕生とその後の変遷についてお話ししたいと思います。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライトオフィス 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX : 072-433-0875

岸和田サテライト 検索